

福岡県家具ブランド力向上支援事業 製品企画力高度化支援事業における製品開発事例 ーノックダウンキッズデスク・チェアの開発ー

隈本 あゆみ*1 富永 由佳*1 青木 幹太*2 福山 直樹*3 田中 孝*4

Development of Kids' Desks and Chairs with Knock-down Style

Ayumi Kumamoto, Yuka Tominaga, Kanta Aoki, Naoki Fukuyama and Takashi Tanaka

福山木工株式会社は、無垢材を使用したダイニングテーブルやテレビボードなどの製造・販売を行っている企業である。数年前から、ららぽーと福岡「おもちゃ美術館」における販売を開始したが、子供向けの高品質な家具を求めるニーズに対応できていなかった。そこで、自社製品の特徴である無垢材を使用した子供用家具の開発を目指して「福岡県家具ブランド力向上支援事業 製品企画力高度化支援事業」に参加し、製品開発に取り組んだ。その結果、組み立て易く持ち帰りしやすい、木の質感を生かした温かみのあるキッズデスク・チェアというコンセプトを構築し、有限会社 TOMORROW がデザインを担ったノックダウン式の「キッズデスク・チェア」を開発・製品化した。

1 はじめに

本報では、「福岡県家具ブランド力向上支援事業 製品企画力高度化支援事業」（以下、「本事業」という）における福山木工株式会社（以下、「福山木工」という）による製品開発の取り組みを報告する。本事業の目的や概要については、令和2年度研究報告掲載「福岡県家具ブランド力向上支援事業 製品企画力高度化支援事業における製品開発事例（その1）」¹⁾内の「1 はじめに」と「2 方法」を参照していただきたい。また、本事業において福山木工による製品開発に関わった製品開発グループ及びデザイン事業者のメンバーを表1に示す。

表1 製品開発グループとデザイン事業者

製品開発グループ	デザイン事業者
・九州産業大学 芸術学部 青木幹太教授 ・福山木工株式会社 ・インテリア研究所	・有限会社 TOMORROW

2 事業の取り組み内容

2-1 製品開発の目的

福山木工は、無垢材を使用したダイニングテーブルやテレビボード（写真 1）などの製造・販売を行っている、従業員 11 名（事業参加当時）の企業である。

創業 100 年の間に培った高品質で確かな木工技術を有するものの、知名度の低さが課題であった。その折、ららぽーと福岡「おもちゃ美術館」（以下、「おもちゃ美術館」という）に出店したことで問い合わせが増え、その宣伝効果を実感すると同時に、子供用の家具を求める声が多いことを認識した。しかし、福山木工は子供用家具の開発ノウハウを保有していないため、本事業に参加し、おもちゃ美術館で販売する子供用家具の開発を行うこととなった。



写真 1 福山木工の既存製品

2-2 製品コンセプトの構築とデザイン事業者の選定

本事業における製品コンセプトの構築は福山木工が中心となり、適宜、製品開発グループがフォローをする体制で行った。福山木工は、おもちゃ美術館に出店している強みを活かし、来店者へのヒアリングを実施した。その結果、来店者の多くは公共交通機関を利用していること、未就学児へ贈る高品質な家具を求めていることが分かった。そこで、開発する子供用家具は、持ち帰ることが容易にできるコンパクトな組み立

*1 インテリア研究所

*2 九州産業大学

*3 福山木工株式会社

*4 有限会社TOMORROW

て式で、無垢材の良さを感じる製品、という製品コンセプトを構築した。

次に、製品開発グループはデザイン仕様書の作成を行った（図 1）。デザイン仕様書とは、デザイン事業者に委託する製品デザインの内容を細かく記載したものである。

（基本コンセプト）

- ・ 無垢材を使用した高品質な未就学児用の「デスク」と「チェア」
- ・ 子供が愛着を持って長く使い続け、子供自身にとって大切なものになる子供用家具
- ・ 就学前の子供（1歳～6歳）が、座って絵本を読んだりお絵描きをしたりする際に使用できるもの
- ・ 持ち帰りやすい、パッケージングも踏まえたデザイン

（デザイン仕様書の主な仕様）

- ・ 北欧テイストの部屋に合うシンプルで柔らかに愛らしさを感じるデザイン
- ・ 無垢材
- ・ 樹種は、ウォールナット、ホワイトオーク、ブラックチェリー、ホワイトアッシュ、センダン
- ・ かわいいパッケージで、電車などでも簡単に持ち帰ることができる

図 1 仕様書の概要

開発グループで議論を重ね、“組み立て易く持ち帰りしやすい、木の質感を生かした温かみのあるキッズデスク・チェア”という開発する製品のテーマを構築し、これに基づきデザイン事業者を全国から募集した。

公募に対し、5 件寄せられたデザイン提案の中から、最もイメージと合致し、かつ所在地が近い有限会社 TOMORROW（福岡県）（以下、「TOMORROW」という）の「キッズデスク・チェア」（図 2）が審査委員会によって採択された。

2-3 デザインの具現化(製品の製作)

製品開発グループとTOMORROWは、「キッズデスク・チェア」開発において、以下 2 点の課題を解決し具現化した。

①子供の使用に耐えられる強度の実現

提案時の「キッズデスク・チェア」は組み立て解体可能な収納家具用の金具を使用予定であったが、強度面に不安があった。そこで、十分な強度を確保できる大きな金具に仕様を変更し、加えて金具が目立たないように接続位置を考慮したデザイン変更を行った。

②容易に組み立てが可能となる工夫

「キッズデスク・チェア」は購入者自身が組み立てる製品形態である。そこでパーツは共通形状とし、部材同士を正しい方向で組めるよう溝を入れる等の工夫を行った。

以上、2 点の課題を解決し、「キッズデスク・チェア」の製品化に至った（写真 2）。



図 2 採択された「キッズデスク・チェア」



写真 2 製品化した「キッズデスク・チェア」

製品化の目処が付いた段階で、TOMORROWによるパッケージの提案を受け、製作した（図 3）。

完成した製品は意匠権の保護を目的として、福山木工と福岡県の共同で、デスクは部分意匠を、チェアは全体意匠を出願・登録された²⁾。

3 まとめ

福山木工は本事業へ参加し、製品開発グループの協力を得て、ロックダウン式のキッズデスク・チェアという製品コンセプトを構築した。更にそのコンセプトに基づくデザインをTOMORROWが担当することで、「キッズデスク・チェア」を製品化した。

事業終了後、福山木工は「キッズデスク・チェア」
をおもちゃ美術館において販売している。



図3 パッケージのイメージ

4 参考文献

- 1) 石川 弘之，隈本 あゆみ，西村 博之，青木 幹太，
酒見 史裕，酒見 典広，田中 敏憲：福岡県工業技
術センター研究報告，No. 30，pp. 21-24（2020）
- 2) 意匠登録 第1796633号，第1796634号